

2018年7月20日

鳥取市長 深澤 義彦 様

日本共産党鳥取県
東・中部地区委員会
委員長 塚田 成幸
日本共産党鳥取市議団
団 長 伊藤 幾子

西日本豪雨災害にあたっての要望書

7月5日から降り続いた大雨が、西日本一帯に甚大な被害をもたらしました。この間、本市におかれましては、国や県、関係機関等と連携をとりながら、緊急な対応及び復旧等にあたられていることに敬意を表します。

ここ近年、全国各地で災害が発生し、「数十年に一度」と言われるような豪雨に対しても、市民のいのちと財産を守る対策が求められます。被災された市民への対策を講じるとともに、さらなる防災対策を講じることを求め、下記のとおり要望いたします。

記

1. 千代川に架かる千代橋と八千代橋の橋脚に書かれた避難判断水位、氾濫危険水位を含めた洪水注意報、洪水警報の通知種類と水位の名称、市民・住民に求める行動等を表記する大きな説明板を、近くの住民と市民に注意喚起するために、2つの橋付近の両岸に設置するよう、国に要請すること。
2. 千代川の下流部での氾濫や住宅・事業所等への浸水を防止するために、千代川の千代橋から八千代橋の間に、繁茂する多くの柳を早急に伐採するよう、国に要請すること。
3. 千代川には河川内に立ち木が多数あり、水の流れを阻害し、災害の原因にもなっている。河川内の立ち木の伐採を早期に行うよう、国に要望すること。
4. 常設の排水ポンプがあるところでも排水が追いつかず、緊急に排水ポンプ車を配置したところがあった。しかし、千代川には国交省管理のものが2台、県管理のものも福部町の塩見川専用で1台しかなく、今回のような豪雨には対応できない状況である。機動的に対応できるよう、国及び県に排水ポンプ車の台数を増やすよう要望すること。
5. 大井手用水は排水機能が不十分であり、鳥取市菖蒲の畑・田は水につかっている。また、下味野の北川も増量して溢れ、田が水につかっている。排水機能の向上、排水ポンプの増設をすること。
6. 河原6区では、排水ポンプが途中でオーバーヒートした。水がつきやすい所には、排水ポンプの台数を増やし、故障などのリスクに備えること。また、河原6区は湧水の可能性があり対応中ということであるが、地区要望など地元の声を十分聞いて対応すること。

7. 用瀬町樟原と古用瀬の浸水被害防止のために、千代川の護岸を高くすること。
8. ハザードマップでは、洪水時の避難場所がほとんどない。千代川の決壊を想定した避難所の指定や避難ルートを再検討し、市民に周知すること。また、自力で避難が難しい高齢者や障がい者の移動手段の手立てをとること。
9. 防災行政無線が聞きとりにくかったという声が多い。また、災害時には情報取得の格差が出てくる。市民への情報伝達や市民の情報収集について検証し、改善すること。
10. 避難所となる学校や体育館への空調設備整備を急ぐこと。また、避難所の床に敷くためのマットを備え、避難した市民の体への負担を少しでもやわらげること。
11. 被災者支援については市のHPで公報されているが、個別に周知すること。
12. 本市では、床上浸水3件、床下浸水27件、一部損壊1件の被害が出ているが、県被災者住宅再建支援制度では床上浸水しか支援対象にならず、しかも「県内10世帯以上、あるいは一の市町村で5世帯以上が全壊」など、地域が一定以上の大きな被害を受けないと支援制度が発動されない。床下浸水であっても後になって被害が出る場合もある。床上・床下にかかわらず、浸水被害住宅への支援を県に要請して実施すること。地域で被災一世帯から支援対象にするよう、県に求めること。
13. 国の被災者生活再建支援制度の対象となるよう求めること。
14. ここ近年、災害による農地被害が毎年のように続いている。農地の復旧についての自己負担の軽減をすること。
15. 鳥取市災害見舞金については、「その他住家が被害を受け、特に市長が必要と認めた場合」に適応させ、被災した市民すべてに支給し、金額を増額すること。
16. 災害時に対応ができるよう正職員を増やすこと。

以上